

タラ芽のふかし法

農業研究センター 球磨農業研究所

研究のねらい

中山間の転換田は立地条件が悪く、有効な活用が十分にされていない現状にある。高齢者、婦女子及び農閑期労働力活用で所得向上と地域活性化を図るため、市場価格が高く需要の伸びが期待できる地域特産物としてタラの芽を選定し、安定収益を得るためのふかし栽培技術の確立を図る。

研究の成果

1. タラの芽ふかし栽培はビニールハウス内に設置した伏せ込み床で行うが、電熱等による床の加温の必要はない。床の最高気温はトンネル被覆資材を工夫し遮光して20 程度に管理する。30 では穂木の腐敗が増加し、芽重も小さく収量が上がらない。
2. 伏せ込み床の培地はロックウール粒状綿が最も優れたが、シラスでも実用性があり価格の面から考えると有望である。
3. 穂木の挿し方は1芽の垂直挿しが良く、穂木が大きい程、芽重が重い。
4. 太く重い優良な穂木を得るための原木の栽培では、風当たりの少ない圃場を選定して台風の被害を軽減するとともに、立ち枯れ疫病等の病害予防にも留意する。

表 1 昼温設定 (平成 2 年)

試験区	平均 芽重	収穫率 *	100本 収量
2 0	1.7 g	81 %	141 g
3 0	1.4	58	85

表 2 培地 (平成 4 年)

試験区	平均 芽重	収穫率 *	100本 収量
イモゴ	3.0 g	53 %	158 g
シラス	3.6	70	251
ボラ	3.0	57	174
ロックウール	3.9	73	284

表 3 穂木の大きさ (平成 4 年)

試験区	穂木 直径	平均 芽重	収穫率 *	100本 収量
大	2.5 cm	4.0 g	65 %	260 g
中	2.0	3.4	59	201
小	1.6	2.9	65	189

表 4 芽数と挿し方 (平成 3 年)

試験区	平均 芽重	収穫率 *	100本 収量
1 芽垂直	1.5 g	70 %	102 g
1 芽斜め	1.3	52	68
2 芽垂直	1.3	42	57

* 収穫率； 収穫芽数 / 伏せ込み穂木数
品種は駒みどりを使用